

## ここが美しいよ!日本—京都の茶屋から学んだ「今」の大切さ—

シュマコーティナ・ゾーヤ

「今度は今度、今は今」。皆さん、この言葉をご存知ですか。役所 広司主演のパーフェクト・デイズからの言葉です。この言葉に表れている「今」を大切にすることについて述べたいです。ちょっとした話から始めさせてください。京都の街をぶらぶらしていたとき、ある茶屋に迷い込みました。お茶屋さんは、古いフィルムカメラを使って、京都の街を季節ごとに撮影するのが好きだといいました。春の間、夏の間、秋の間、冬の間があり、どの部屋にもそれぞれの季節を表す写真が貼ってありました。さらに、私は羊羹と抹茶をいただきました。透き通るような、夏から秋への移り変わりを表す緑と赤色の羊羹、ざらざらした楽焼の茶碗、そして抹茶の香りで、「今」を楽しむことの大切さに気づきました。茶屋で感じた、坪庭から簾を動かす秋の風も、四季折々の変化を感じさせてくれました。

「春は花夏ほととぎす秋は月冬雪さえて冷しかりけり」。この道元の和歌から川端康成の「美しい日本の私」という評論が始まります。この言葉には、季節ごとのありのままの姿を楽しもうという意味が込められています。日本の美学は四季折々を反映し、他の国と違い、四つの季節のみならずたくさんの季節があると気づきました。日本人は自然と深く関わり、島で長い間暮らしてきたため、日本人は特有の感性を手に入れたのだと思います。

一方、ロシアには「夏にはソリを、冬には荷車を用意せよ」ということわざがあります。このことわざは、冬が長く夏が短いロシアの厳しい気候条件を反映しています。夏には沢山の薪を用意しなければいけません。ストーブの中で薪が燃えながらぱちぱちとする音なしで冬を乗り切るとは考えられないのです。しかし、美しい日本を学んだおかげで、このロシアの厳しい気候でさえも、その中にある魅力を感じられるようになりました。ロシアも「今」を楽しむ文化を実は持っているのです。思い出すと、自分は民謡学の研究の時、ロシア人のおばあちゃんたち、いわゆる「バーブシカ」と一緒に季節の祭りについて幾日も幾日も話をしていました。

日本についての勉強を通じて得た考え方をきっかけに、ロシアにルーツを持つ自分自身の人生が今より有意義になると考えています。「今度は今度、今は今」。「今」を大切にし、この瞬間を何よりも充実させ、愛しい文化を再発見できるようになりました。私はこれからの人生、この言葉を大切にしていきたいと思います。

雨の日は雨を聞く

五感を使って、全身でその瞬間を味わう

雪の日は雪を見て

夏には夏の暑さを

冬には身の切れるような寒さを

毎日が良い日